



格差 そのものじゃないですか!?

内守谷公民館学童クラブのその後について尋ねる



内守谷公民館

から対象が6年生まで拡大することに伴い、絹西小学校の2教室を学童クラブ専用室に改修して、施設整備を完了した。

議員

内守谷には学校がない。また水海道公民館は耐震目指して、内守谷公民館はどうなのか。計画も何もしていないのは格差そのものではないか。学童クラブについて、私は絹西小学校の中に学童クラブをふやすということとを言っているのではない。

市長

学童クラブは学校の中でやることに決定しているので、内守谷公民館の今後のあり方として複合的な施設をつくる方向で検討していきたい。格差があるのは事実なので、どう解決しているか真剣に議論している。

議員

そういうものも含めて内守谷公民館跡地に考えてはどうか。市役所の出先機関もプラスしてもいいのではないか。内守谷は税金だけ納めて何も無いということはおかしくないか。

市長

今の内守谷公民館の耐用年数が来れば、複合的なものとしてつくりかえるということもあると思うが、今後検討していく。

内守谷公民館学童クラブのその後について尋ねる



災害弱者を見守る「近所の目」

災害時に活用できる「近所マップ」の作成について

議員

昨年、高齢化社会に伴う重層的な見守り事業ということで輪島市を視察し、見守り事業の中で、ご近所マップを作成し有効活用していることを勉強した。輪島市の高齢化率は約40%で、もう半分近くの方が65歳以上という深刻な高齢社会を迎えている。輪島市のご近所マップは、一人暮らしの方、認知症または介護をしている家、空き家になっている場所、生協などを利用して買い物に困っていない家、だれかが定期的に訪問してくれる家など、そうした定義に分けて色分けし作成されている。こうしたマップを作成しながら、様々な方法で見守りを実施し、人命救助にまで至った例が毎年1、2件あり、どれもすべて単身者世帯である。当市でもご近所の方、共助というものを平常時から再認識し、見守りを実施していくことが必要ではないかと考える。避難場所や井戸、一人暮らしの高齢者などの情報を日頃から共有しておくことが大変有

市民生活部長

効である。そうしたマップを作成する考えはあるか。

高齢者や災害時要援護者、避難場所、災害時協力井戸の場所などの情報を共有したご近所マップを作成し、防災対策をとることも必要であると思う。しかし、作成にあたっては、災害時要援護者のマップ登録のための本人同意が得られないなどの理由により、マップ搭載が必要な方の情報を共有することが難しいのが現状である。そのため現在、市では災害時における地域の救助活動が速やかに行えるよう、各地域の自主防災組織に対して、防災組織内の小規模地区ごとの防災マップづくりを推進している。



ご近所マップ作成例

坂巻 文夫 議員

堀越 輝子 議員